

クイズに答えて素敵な商品をGET

松ぼっくり

Q 國松石材は毎日「石」と一緒に仕事をしています。石の上にも三年、石橋を叩いて渡るなど「石」が使われていることわざはたくさんあります。一念を込めて事を行えば、できないことはないというたとえを表すことわざは次の3つのうちどれでしょうか。

- ① 石に立つ矢 ② 石に花咲く ③ 石に布団は着せられず

皆様のご応募
お待ちしております

応募方法 同封のハガキ解答欄に回答をご記入の上、御返信下さい。

- 今回の商品は** **こちら**
- ⑦ バッグ 2名 (290mm×230mm×85mm)
 - ⑧ ポーチ 3名 (185mm×115mm)
 - ⑨ スライドミラー 5名 (外寸60mm)

地域応援キャンペーン!
今年は森博多織様の
素敵な商品です!
どんな色、柄が届くかは
お楽しみ♪



応募期間 2021年10月31日(日)(消印有効)まで

当選発表 賞品の発送をもって
当選とさせていただきます。

気になる方は

前号 第35号クイズご当選者

- ⑦ 新訂 先祖の話
 - 福岡市東区 百田様
 - 古賀市 下田様
- ⑧ 南蔵院 御神木念珠
 - 福岡市東区 眞鍋様
 - 福岡市西区 高木様
 - 北九州市若松区 中村様
- ⑨ 触れないハンド
(感染症対策マルチフック)
 - 福岡市東区 犬塚様
 - 福岡市東区 内田様
 - 福岡市南区 森田様
 - 福岡市早良区 龍様
 - 春日市 吉本様

社員紹介



高松 大翼 (たかまつ だいすけ)

生年月日 1990年9月10日
血液型 A型
マイブーム ラグビー
お祭り



昨年2月に入社した高松です。体を動かす事が好きでこの仕事は自分にぴったりだと感じております。持ち前の気合と根性とパワーと愛嬌と元気で頑張っていきたいと思しますのでよろしくお願いいたします。

編集後記

初めて松ぼっくりの編集に携わりました。私は「お客様の声」のページを担当しました。実際にお客様と打ち合わせから工事完了、お引き渡しまでを初めて経験し、これからもお客様とのふれあいを大切にして喜んでいただけるよう頑張ります。

(古賀 亮)

ご意見・ご感想・質問などどんなことでもお便り下さい。

創業300年 技術の

國松石材株式会社

平尾店/福岡市中央区平和3丁目12-27(平尾霊園下)
TEL 092-401-4194 FAX 092-401-4189

工場/糟屋郡篠栗町大字高田字中坪324-1
TEL 092-410-1483 FAX 092-410-1987

<http://www.kunimatu.com>

- 1 季節の小話
- 2 お墓の相談室「お墓の土間について」
- 3 第36回 町名散歩「^{なしま}名島」
- 4 お墓参りっていいね!
「お墓参り」の感動的なエピソード
第11回 エッセイスト・タレント 阿川佐和子さん
- 5 お客様からの声
- 6 お墓のなるほど講座
- 7 國松さん、今なんしようと?
「光雲神社」福岡の礎を作ったお殿様に会うための石畳を作っています
- 8 クイズに答えて素敵な商品をGET!



季節の小話 打ち水

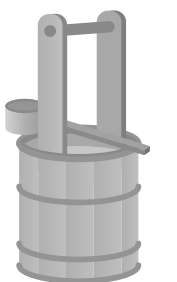
夏場の暑さを和らげる対策として、よく知られている「打ち水」。

打ち水は、自宅の前の道や、庭に水をまくことで清涼効果を期待して行うもので、土ほこりやほこりを抑える効果もあります。また、水をまくことで地熱を下げる効果がありますから、涼気を取るためにと、冷房設備などが整っていない時代には、積極的に打ち水を行っていたようです。

一方で、その場を清めるという神道的な意味合いもあり、玄関先や人が出入りする場所への打ち水は、「来客への気遣い」のひとつでもあったようです。

打ち水を行う時間は、気温が上がっていない朝や気温が下がり始める夕方がおすすです。暑さ対策としてベランダで植物を育て、水やりのタイミングでベランダに打ち水をしてはいかがでしょうか。涼を呼び込む昔ながらの知恵である打ち水。

2003年より、みんなでいっせいに打ち水したら真夏の気温が2℃下がるという仮説を検証するため、打ち水大作戦がスタートしています。現在も各地で継続されているイベントです。今年は8月14日(土)が全国いっせいに「打ち水の日」です。皆様も参加されてみてはいかがでしょうか。



先祖父の墓
Q&A
お墓の相談室 疑問・質問コーナー

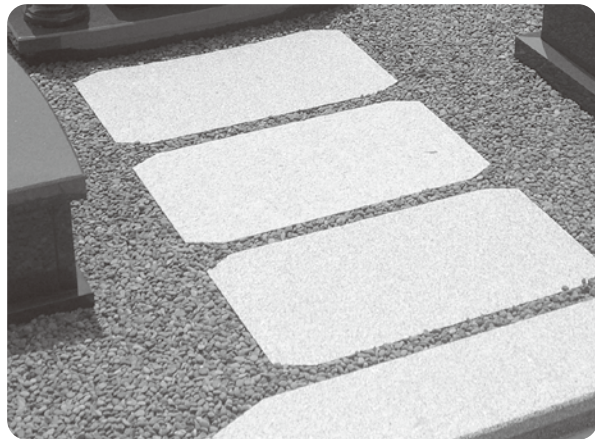
長い梅雨が明けると、本格的な暑さがやってまいりました。皆様、体調を崩されたりしておられませんか。お墓参りに行くと、やはり掃除が大変だという声を聞きます。枯葉が落ちてたまっていたり、雑草が生い茂っていたり。そこで今回は土間についての工事を紹介させていただきます。土間の工事にも色々な仕上げがあります。



1 防草マサ土仕上げ
固まるマサ土で自然な仕上がりになります。



2 モルタル仕上げ
表面をコンクリートで覆い、徹底的に雑草対策が出来ます。



3 玉砂利仕上げ
モルタル仕上げをして玉砂利を敷きます。落ち着いた仕上がりになります。



4 石張り仕上げ
見た目も美しく、お掃除も簡単になります。

価格は仕上げの種類と施工面積によって変わりますので、まずはお気軽にお問い合わせ下さい。もちろんお見積りは無料です。施工日数は約3~4日ですが、お盆・お彼岸の前後は工事が混みあいますので余裕をもってご依頼頂ければと思います。お墓のお掃除も11,000円(税込)より承っておりますので、どうぞご相談ください。

國松さん、
今なんしようと？

「光雲神社」
福岡の礎を作ったお殿様に会うための石畳を作っています

てるもじんじゃ
光雲神社は歴史でも有名な二大スター黒田官兵衛と長政公を祀る神社です。神社の名前は、2人の戒名龍光院殿(官兵衛・如水)、興雲院殿(長政)より光・雲と一文字ずつ取って名付けられています。

官兵衛は2014年の大河ドラマにもなった「軍師 官兵衛」で福岡でも知らない人はいないのではないかと思います。戦いに至っては57戦無敗と勝負の神様としても有名なのは周知の通りです。また江戸時代に福岡の初代藩主になった黒田長政公は筑前・博多の地が町人や禅僧の強い地であったので、その特色を活かし数々の産業を奨励し博多人形や博多織、高取焼などの伝統工芸の復興に力を入れ、現在に至るまで福岡の名産品に昇華させました。

その黒田長政公の没後400年を前に境内の改修工事を行っており、昨年から今年にかけて参道新設工事・境内整備工事を行っています。

また境内には水牛の角であしらった兜を模した手水鉢や筑前今様歌に詠われた関ヶ原合戦時に合渡川(岐阜市)で命拾いしたという幸運の川柳の木が植えられています。(石組は國松石材施工)

記念すべき日を迎えるにあたってまだまだ準備をすることがありますが、綺麗になっていく境内を見に皆さんもどうぞ参拝がてら足を運んでみては如何でしょうか？

きっと長政公も喜ぶと思いますよ。



参道新設工事中



参道設置完了



境内階段改修工事



川柳の木と石組



水牛の角をあしらった兜の手水舎

お墓のなるほど講座

今回は儒教の影響を受けた日本のお墓の役割について、靈魂観と併せてお話をしていきます。



三千年ほど前からの中国社会の礼に関する諸説を集めた『礼記』^{らいき}という本があります。この本には葬儀やお墓のことがたくさん書いてあります。

その『礼記』に「魂氣は天に帰り、形魄は地に帰る」とあります。^{こんき}これは「人が亡くなると、気体のように軽いたましい（魂氣）は浮かんで本来のふるさとの天に帰り、形のある重いたましい（形魄）は本来のふるさとの大地へ帰る」という意味です。

儒教には古代からご先祖様を家に招いておまつりする「招魂再生」^{しょうこん}という重要な儀式がありました。それは宗廟（靈廟）^{そうびょう}で、地上に残った白骨（形魄）を祭壇にまつり、そこへ天（または山）に上った靈魂（魂氣）を招き入れる儀式です。

最初は、白骨の頭蓋骨を祭壇にまつたそうですが、隋の時代には木製の「神主」^{しんしゅ}になっていました。

これを「位牌」として宋の時代（960～1279年）に禅宗のお坊さんが日本へ伝え、私たちが現在目にする形になりました。

位牌は、中国と日本では意味が違います。中国の位牌（神主）は魂魄でいうと、「形魄」そのものの役割をしていますが、日本ではなぜか「靈魂（魂氣）」が宿るところ（依り代）^{よりしろ}になりました。

お墓は人が亡くなって「魄」というたましいの宿る白骨を大自然のふるさと「大地」へ帰す大切な役割を果たしているのです。



先祖の話
新訂版 発行所：株式会社石文社

第36回 町名散歩

な じ ま 名 島

名 島

今回の町名散歩は、前回のクイズの答えでもある福岡市東区名島に行ってきました。なぜ名島と呼ばれるようになったのかご存知でしょうか？

4世紀頃、神功皇后は三韓遠征の折、香椎の西にある黒津の岬より、諸軍各々に郷名姓名を名乗らせながら乗船させたことから、その場所が「名嶋」となると伝えられています。

そしてこの地より宗像三女神（田心姫命・湍津姫命・市杵島姫命）を拜し、遠征の無事を祈られました。その結果、新羅を討ち、百済、高句麗を帰服させ無事に帰還できたことから、祈願成就のお礼として宗像三女神を※奉斎されたことが名島神社の起源と伝えられています。※神仏をつつしんで祀ること

中世には七福神の信仰が盛んになり、三女神の市杵島姫命が弁財天と同一視された事から、「名島弁財天社」と称されるようになり、足利尊氏や豊臣秀吉などの時の権力者の参詣も受けたそうです。その後、明治時代の神仏分離を経て現在の名島神社となりました。

神功皇后ですが、日本書紀によれば、聡明にして美貌であり不思議な靈感を持ち神託を告げる才能の持ち主だったとか。

この神功皇后が朝鮮半島から帰朝した際、ご懐妊なさっていたそうです。そして、名島神社にある「縁の石」の上に腰を下ろし休まれた後、元気な子を産んだそうです。このことから、寄り添い祈ると安産になり、また縁遠き子女が祈れば良縁に巡り合う…と云われるようになりました。

名島には、平成30年に登録有形文化財（建造物）に登録された名島橋、名島運動公園、名島城とこの地に点在する史跡の顕彰のために造られた名島城址公園などがあります。ぜひ足を運んでみてください。

名島神社
鳥居



名島神社
御本殿



縁の石



名島城址
公園からの
風景



「お墓参り」の感動的なエピソード

第11回 エッセイスト・タレント 阿川佐和子さん

お墓参りっていいね!

「墓参り 初心者」

エッセイ「見上げれば三日月」(婦人公論)より

彼岸が過ぎ、シルバーウィークの喧騒が収まった頃、私はようやく親の眠る墓へお参りに行った。恥ずかしながら実にもって「ようやく」である。父が亡くなったのが五年前の夏。その翌年に夫の母が他界して、去年には夫の父が息を引き取り、そして今年の春、新型コロナの渦中に私の母が亡くなった。ここ数年で夫婦双方の親がバタバタといなくなったことになる。もちろん、葬式、四十九日、一周忌、三回忌などの仏事のたびに墓所へ赴いて、墓の前で手を合わせてはきたけれど、そういう「特別日」以外の墓参りをついそじたことがない。無礼極まりない子孫なのである。それもこれも、親の教育が悪かった。父は私が幼い頃からことあるごとに叫んでいた。「俺は無信心論者だ。覚えておけ」 そういう父のおかげで私はお盆の意味も葬儀に関する常識もことごとく無知のまま育った。初七日、月命日、初盆などという言葉を知ったのは大人になってからのことである。まして父母とともに先祖の墓参りをした記憶はほとんどない。かろうじて父の故郷である広島伯父伯母の家に遊びに行った折など、「せっかく来たのだからお墓参りに行きましょう」と伯母に誘われ連れていかれたが、心の中では「面倒くさいなあ」と思う不届きな娘であった。

私の両親の墓は鎌倉で、夫の両親の墓が横浜にあったので、「同じような方向だから車でぐるりと回ってこよう」と夫と相談し、日を選んで梯子酒ならぬ、梯子墓参りと相成った。さて、墓参りに何が要るか。なんといいともお花と線香であろう。線香はここ数年、お香典にいただいたストックがある。花屋は夫の両親の霊園の近くにあったと記憶する。「そこで鎌倉の分も買えばいいよね」こうして、「お昼はどうする?」「おにぎり作って車の中で食べよう」「水筒に麦茶入れました」「マスク持った?」「あ、お数珠忘れた」「蚊がいると思うから殺虫剤とキンカンも持っていこう」などと、少々趣は異なるものの、まるで遠足へ出かける朝のような騒ぎの末に家を出る。さて一ヶ所目。夫の両親の霊園に到着する。さっそく花屋を覗くと、お彼岸の季節だけあって用意は万全。青紫色のリンドウ、赤いカーネーション、黄色い菊、白菊、緑の葉っぱの組み合わせの小さな花束がセロファンに包まれてバケツにたくさん浸けられている。が、それ以外に種類はない。つまり、「お花、いただけますか?」と花屋さんに声をかけると、自動的に花束二つ、左右一対分を差し出され、「一六〇〇円になります」え、そうなの……? まず、けっこう高いことに驚いた。加えて花の組み合わせを自分で選択できないことにかすかな衝撃を受ける。夫の両親の趣味はわからないけれど、今年の五月に亡くなった母は花がこよなく好きだった。その母の初めての墓参りである。母の好みそうな花を墓に飾ろうと企んでいた。しかし、この場で花を購入しないと他の花屋を探さなければならなくなる。たしか私の両親の墓の近くに車を停めて寄ることのできるような花屋はなかったはずだ。「もう一対分、つまり花束四つ、ください」と言いかけた夫を制し、「いえ、一対分だけでいいです」私は急いで財布から一六〇〇円を出し、花束を二つ受け取って花屋をあとにした。思いついたのである。購入した花束を分解し、リンドウと白菊を二輪ずつ抜き取る。残るはリンドウ一輪と赤いカーネーションと黄色い小菊と葉っぱの花束となった。色合いが少し落ち着いた。その花束を夫の家の墓の花器に挿す。桶に満たした水を注ぎ、箒と雑巾で墓の掃除をし、線香に火をつけて線香台に供える。

きれいになった墓の前に立ち、二人して手を合わせ、しばし黙。——お義父さん、お義母さん、これからもよろしくお見守りください。「うーん、なかなか可愛くなったな」目を上げて改めて墓を眺め、自己満足に浸る。隣から「ケチ」という眩しが聞こえる。続いて二ヶ所目の墓所へ移動。途中、花屋を探したがやはり見当たらない。手元にあるのはリンドウと白菊だけの花束二つである。「ちょっと寂しいかなあ……」あとはお寺の駐車場に期待するしかないと思っていた。寺の本堂よりだいぶ坂の下、雑木林に囲まれた空き地のような駐車場の周辺に野花が咲いているかもしれない。私は車を降りるや周囲に目を走らせて色を探す。

すると、「あったああ!」雑草の間に、赤いミミズのように可憐な姿を見せるミズヒキソウが群生しているではないか。数本手折って、手元にあるリンドウと白菊に添えてみる。これでだいぶ華やかになった。さきほど同様、父と母の眠る墓の掃除をした上で、左右の花器に花を活ける。実はそれより数日前、墓参りをしてくださった近しい知人の花がすでに供えられていた。その中から、まだ元気な様子のワレモコウを抜いて花束に添えてみると、グッと秋らしい風情が出た。——どう、母さん? この花、いい感じでしょ? 墓の前で手を合わせながら私はまたもや自己満足に浸る。ついでに一言。——父さん、あまり母さんをこき使わないようお願いしますよ。手を合わせながら思い出した。以前、北野武さんに教えられたのである。「墓参りってのは、行き帰りの道中ですと故人のことに思いを馳せる。そういう時間が大事なんだよね」思えば私は両親の墓に着くまでの間、車中にておにぎりをいつ食べるか、あるいは墓に供える花を何にするかということばかり考えていた。はたして義父母、父母に心を向けていただろうか。墓参り失格だ。でも、どんな花を供えようかと思うと、次の墓参りが楽しみになってくるのはどうしたことだろう。



(婦人公論) 発行日 2020年11月24日

お客様の声

國松石材とご縁をいただいたお客様の温かいメッセージをご紹介します

『親族も納得いくお墓にして頂いて感謝しています』

お名前 大橋 様
ご住所 福岡市中央区

夫が鬼心中又暑中 何處も足をこいで下り、あのとうございまして、私達だけなく、親族も納得いくお墓にして頂いて感謝しております。これから何かとご相談させて頂く事が出てくると思っております。どうぞ、よろしくお願ひ致します。



中央区にお住いの大橋様



改築前



改築後

担当者から一言

大橋様、この度は大変お世話になりました。当初は現状、傷んでるところの補修工事をされるかお墓を解体して納骨堂に移られるかのご相談でした。お話をさせていただくなかで、今のお墓を解体して新しく建て直すという方向に変わりました。打合せ時にご自宅に訪問させていただいた際には、お子さんへとお土産までいただきありがとうございました。お墓の完成引渡しの際に皆様の笑顔を見て喜んでいただけたと安心しました。大橋様とは良いご縁を結んでいただいて感謝申し上げます。今度ともよろしくお願ひいたします。



お客様係 古賀 亮